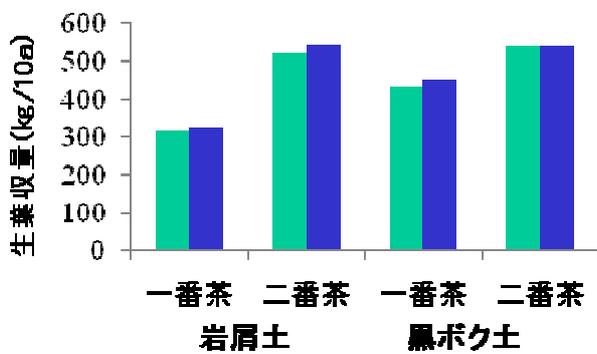
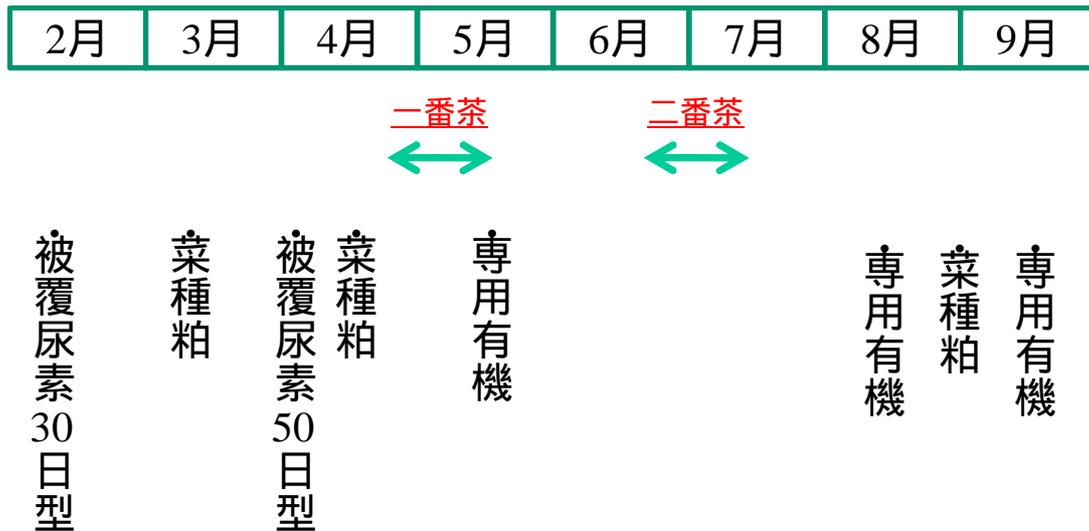


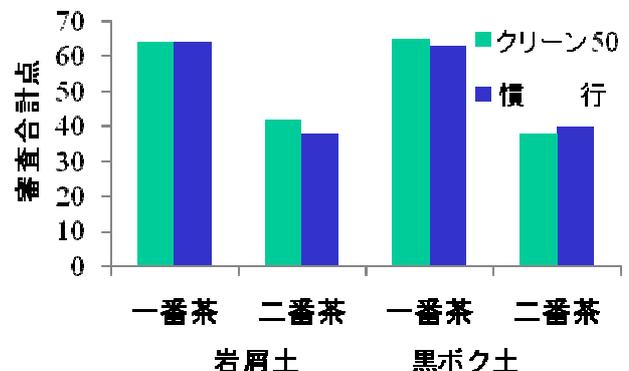
「ぎふクリーン農業50」に対応した茶の施肥体系

岐阜県では安全・安心な農産物生産のために「ぎふクリーン農業」を推進しています。茶栽培現場では、化学肥料と化学合成農薬を30%削減した栽培方法をさらに発展させる必要があります。そこで、慣行栽培（平成6年基準）から化学肥料を50%削減した施肥体系を開発しました。

施肥体系（平坦地を想定）



一番茶、二番茶の生葉収量



一番茶、二番茶の荒茶審査合計点

（研究成果）

- ・年間の窒素成分は50kg/10aで、このうち化学成分は21 kg/10aの体系（「クリーン50体系」）を組み立てました。
- ・「クリーン50体系」で栽培した一・二番茶の生葉収量及び生育は慣行施肥体系と大差ありません。
- ・荒茶の官能審査値は慣行施肥体系とほぼ同等です。
- ・荒茶成分については総アミノ酸含量が栽培土壤によってはやや低下する傾向が見られます。